

湘南慶育病院 松林 守(検査科科长)

功 績	グループのどこよりも早期にPCR検査機器を手配した。さらにグループ病院の検査依頼には、徹夜をしてまで誠心誠意に対応した功績
推 薦 者	マネージングディレクター 間山文博
推 薦 理 由	まさに医療人の使命感の塊として、職員の手本にしたい。

内 容

検査科科长の松林は開院以来、当院の検査部門を一から立ち上げ、その濃いキャラクターで引っ張ってきてくれました。

今年度においては、健診部門との関係が深い故に責任者として指名したところ、自らの部下を健診専従として配置し、仕組みづくりを成功させ、11月現在、予算対比249.1%と予想を大きく上回る成果を出しているところでした。

そんな松林が10月早々「ひょんなところから安くて精度が十分なPCR検査機器が手に入りそうだ」と言ってきた。ミズホメディアの限定機「全自動遺伝子解析装置スマートジーン」というものであった。価格は税抜き、試薬抜きで264千円であった。業界では来年4月まで入手困難な機器で、「どうやって手配できたのか?」と聞くと「ちょっと」とのことであった。

11月1日に検査可能となり、グループでは初めてのことです。検査1時間で結果が判明するので、その安心感は相当なものでした。

そんな最中11月30日に竹川病院よりコロナ濃厚接触者のPCR検査の依頼が飛びこんできて、松林に伝えたところ「まかせてほしい」といつもの頼もしい返事が返ってきました。ですが、検体が届いた時間は14時を過ぎており、しかも13名分でした。当該機器は一回につき1検体約1時間を要するため、一旦20時で中断し、次の日の午前中までにすべて終わらせるということで竹川病院に同意を得ました。

ところが、次の日に出勤すると松林から早々、「全員陰性!!竹川病院に早く連絡してあげてほしい」という内線がありました。13例の検体に要する時間は13時間かかるため、松林は徹夜でPCR検査を行ったのか確認してみると、「まあいいじゃないか。竹川病院が安心するでしょ?」と言いました。

このような医療人の使命感の塊のような松林科長にぜひ理事長賞を推薦したいと思います。